

# 亀岡市立病院 経営審議会資料



平成28年8月 亀岡市立病院



# 目次

亀岡市立病院の施設概要	.....3
亀岡市立病院の現状について	
市立病院常勤職員の状況	.....5
外来患者数の推移	.....6
入院患者数の推移	.....7
病院現状のサマリ	.....8
外部環境	.....9~16
内部環境	.....17~23

# 亀岡市立病院の施設概要

## 病院概要

開設年月日	平成16年6月1日
開設者	亀岡市長
管理者	玉井 和夫
病院長	玉井 和夫
所在地	亀岡市篠町篠野田1-1
敷地面積	17,940m <sup>2</sup>
延床面積	9,947.12m <sup>2</sup>
病床数	一般病床 90床、地域包括ケア病床 10床(平成28年3月より) 総病床数 100床
標榜診療科	一般内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、神経内科、 小児科、外科、整形外科、皮膚科、眼科、泌尿器科、放射線科、 麻酔科、リハビリテーション科 (14診療科)
職員数	常勤職員120名 (管理者1名(病院長)、医師14名、看護師 69名、看護助手 3名 医療技術者20名、事務職員13名) 平成28.8.1現在
法適用	地方公営企業法全部適用

## 建設事業費

総事業費	59億3,200万円
・施設整備費	56億6,200万円
(建設工事費)	33億4,500万円
(用地購入費)	12億2,000万円
(医療機器等購入費)	8億4,300万円
(病院管理システム開発費等)	2億5,400万円
・病院開設準備経費	2億7,000万円

## 財源内訳

国庫補助金	2億1,400万円	(3.6%)
京都府補助金	1億6,700万円	(2.8%)
亀岡市補助金	3億3,400万円	(5.6%)
起債	52億1,700万円	(88.0%)
合計	59億3,200万円	

## 亀岡市立病院の現状について

# 市立病院常勤職員の状態

(単位:人)

職種	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		H28-H27	備考
	H25.4.1	H26.3.31	H26.4.1	H27.3.31	H27.4.1	H28.3.31	H28.4.1	H28.8.1	(4/1比較)	
管理者	1	1	1	1	1				-1	病院長兼務
事務	13	13	14	14	13	12	13	13	0	
医師	13	14	12	13	12	14	15	15	3	
看護師	74	73	77	77	75	67	67	69	-8	地域連携室配属2名
看護助手							3	3	3	病棟配属
臨床工学士					1	1	1	1	0	
臨床検査技師	4	4	4	4	4	4	4	4	0	経営企画課配属1名
放射線技師	4	4	4	4	4	3	4	4	0	
薬剤師	3	3	3	4	4	4	4	4	0	
理学療法士	3	3	3	3	3	4	4	4	1	
作業療法士	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
管理栄養士	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
医療ソーシャルワーカー	1	1	1	1	1	1	1	1	0	
合計	118	118	121	123	120	112	118	120	-2	

◆平成25年度の状況

4/1 医師3名・看護師7名・  
作業療法士1名採用  
6/1 医師(内科)1名採用  
6/30 看護師1名退職  
7/31 看護師1名退職  
12/26 総務から看護師1名看護部に異動  
1/1 医事課1名採用  
3/31 看護師1名・医師2名・行政職1名退職

◆平成27年度の状況

4/1 医師2名・看護師2名・臨床工学士1名採用  
4/30 看護師1名退職  
6/30 経営企画課長・放射線技師・看護師1名退職  
7/1 看護師1名採用  
8/1 糖尿病内科医師1名採用  
11/1 内科医師・理学療法士1名採用  
12/31 管理者退職  
3/31 医師2名・看護師7名退職

◆平成26年度の状況

4/1 看護師5名採用  
行政職1名(経営企画課長)採用  
11/2 医師(循環器)1名採用  
1/31 病院長退職  
2/1 病院長・薬剤師1名採用  
3/31 看護師4名・医師3名・行政職1名退職

◆平成28年度の状況

4/1 医師3名・看護助手3名・放射線技師1名採用  
5/1 看護師1名採用  
5/30 看護師1名退職  
6/30 医師2名退職  
7/1 医師2名採用  
8/1 看護師2名採用

## 外来患者数の推移

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年
延べ患者数(人)	72,733	71,756	68,959	66,630	64,277
一日平均外来患者数(人)	298.1	292.9	282.6	273.1	264.5
一人一日当たり診療単価(円)	7,918	7,752	8,812	9,498	9,606

(単位:人)

診療科名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年
内科	12,458	10,390	8,385	8,265	8,198
消化器内科	10,078	10,450	10,162	9,464	8,276
循環器内科	7,973	7,820	7,133	5,583	5,407
糖尿病内科	—	—	1,584	2,788	2,537
神経内科	533	777	742	779	880
小児科	5,339	4,522	3,649	3,839	3,652
外科	7,430	7,047	7,070	7,890	7,771
整形外科	19,297	20,853	20,986	18,739	17,792
皮膚科	2,792	2,576	2,296	2,399	2,368
泌尿器科	1,044	965	993	1,178	1,178
眼科	4,275	4,643	4,477	4,434	4,877
麻酔科(ペイン)	1,514	1,713	1,482	1,272	1,341
計	72,733	71,756	68,959	66,630	64,277

## 入院患者数の推移

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年
延べ患者数(人)	28,566	26,852	27,574	24,409	23,530
病床利用率(%)	78.0	73.6	75.5	66.9	64.3
一人一日当たり 診療単価(円)	39,258	36,717	37,815	36,667	37,415

(単位:人)

診療科名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
内科	6,318	4,155	1,892	4,255	6,035
消化器内科	3,894	4,544	7,916	4,207	3,313
循環器内科	1,958	1,867	1,855	487	368
糖尿病内科	—	—	1,692	1,323	721 (※)
小児科	65	38	42	5	47
外科	6,551	6,538	5,866	5,655	4,691
整形外科	9,317	9,229	7,906	8,040	7,943
眼科	430	480	405	437	412
麻酔科	33	0	0	0	0
神経内科	0	1	0	0	0
計	28,566	26,852	27,574	24,409	23,530

※H27年8月～H28年3月末までの数値(医師の入職が8月のため)

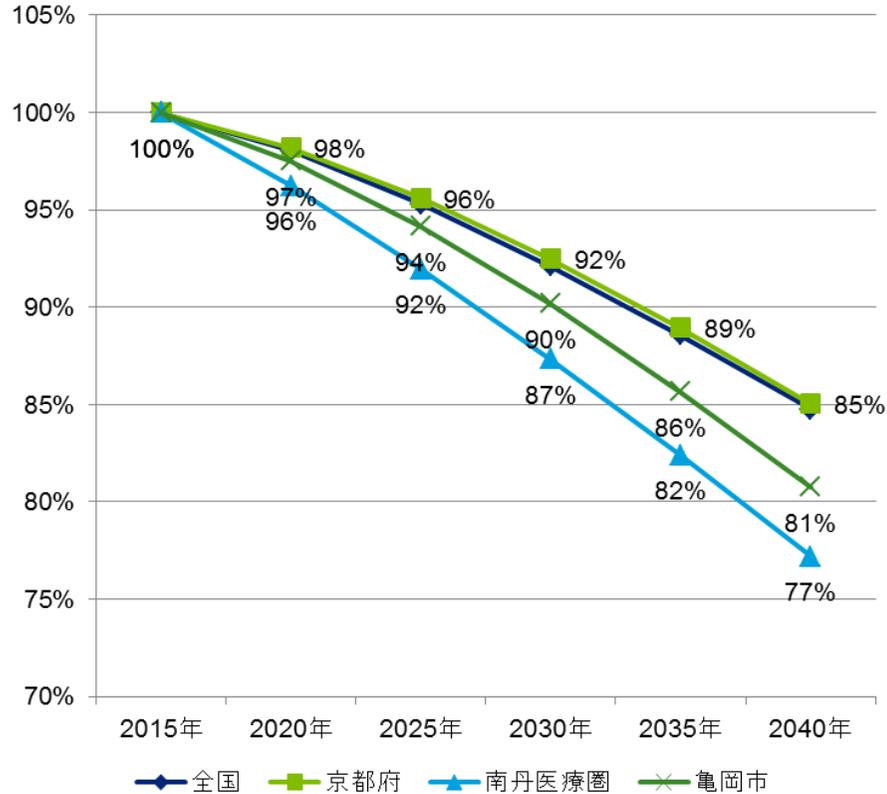
# 病院現状のサマリ

項目		内容
外部環境	医療圏の将来推測	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 南丹医療圏は高齢化が他に比べ進んでおり、リハビリに対する需要が今後より高まることが考えられる</li> <li>✓ 南丹医療圏は2025年の必要病床数に対し、高度急性期・回復期病床が不足している</li> </ul>
	医療機関整備状況と患者動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 南丹医療圏の医療機関は高度急性期で不足しているが、医療従事者も不足しており、人員投入が必要とされる急性期医療への特化が厳しい状況である</li> <li>✓ 亀岡市の患者は多くが高度急性期医療を近隣の京都市の高度急性期病院で受療しており、急性期を脱した患者を受け入れる回復期病床の不足により回復期機能も流出していることが考えられる</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築のためには回復期・慢性期～在宅への移行がスムーズに進む地域医療体制の構築が求められる</li> </ul>
	救急医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 医療圏内で年間6000件の救急搬送の内、医療圏内の医療機関では4500件を受け入れており1500件は圏外へ搬送されている</li> <li>✓ 亀岡市は市立病院(509件)とシミズ病院(650件)が救急受入を対応しており、市立病院は中等症以上の患者の受け入れも行っており、一定の救急医療の役割を果たしている</li> </ul>
内部環境	財務状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入院収益の減少、繰入金の減少と人件費の増加により経年で収支で赤字が続いており、非常に厳しい経営環境となっている</li> <li>✓ キャッシュフローの悪化により資金が減少しており、この状況下では数年で資金不足に陥る状況である</li> <li>✓ キャッシュフローを安定させるためには、経常収支での黒字化を求められる</li> </ul>
	医療機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 医師、看護師数は他施設に比べ多くなっており、病床稼働率増加に対し人員は不足しないと考えられる</li> <li>✓ 外来は紹介患者の増、高額医療機器や注射など当院の役割を果たしている一方で診療行為の少ない患者も多くなっており、診療の効率化には地域の医療機関とのより強い連携を求められている</li> <li>✓ 入院患者の構成は約1/4が医療投入資源の非常に少ない患者となっており、病床の効率的な利用が求められる</li> </ul>

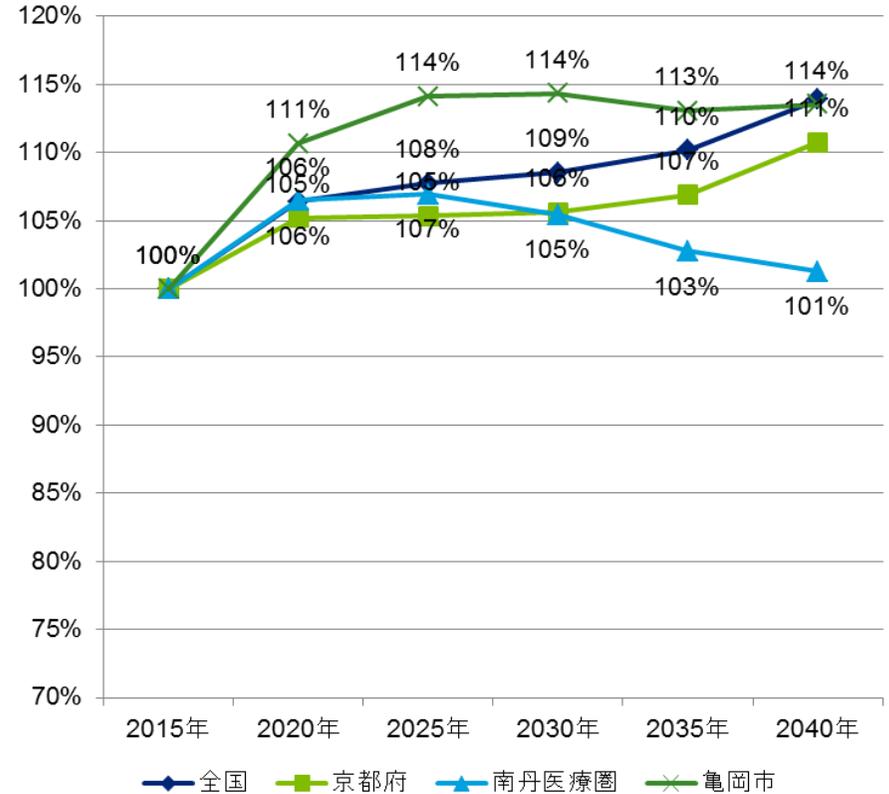
## 外部環境

# 南丹医療圏、亀岡市は人口の減少が進んでいく一方で、亀岡市の65歳以上の人口は今後他地域以上に増加していくことが予測されている

## 人口増減率の推移(2015年ベース)



## 65歳以上人口増減率の推移(2015年ベース)

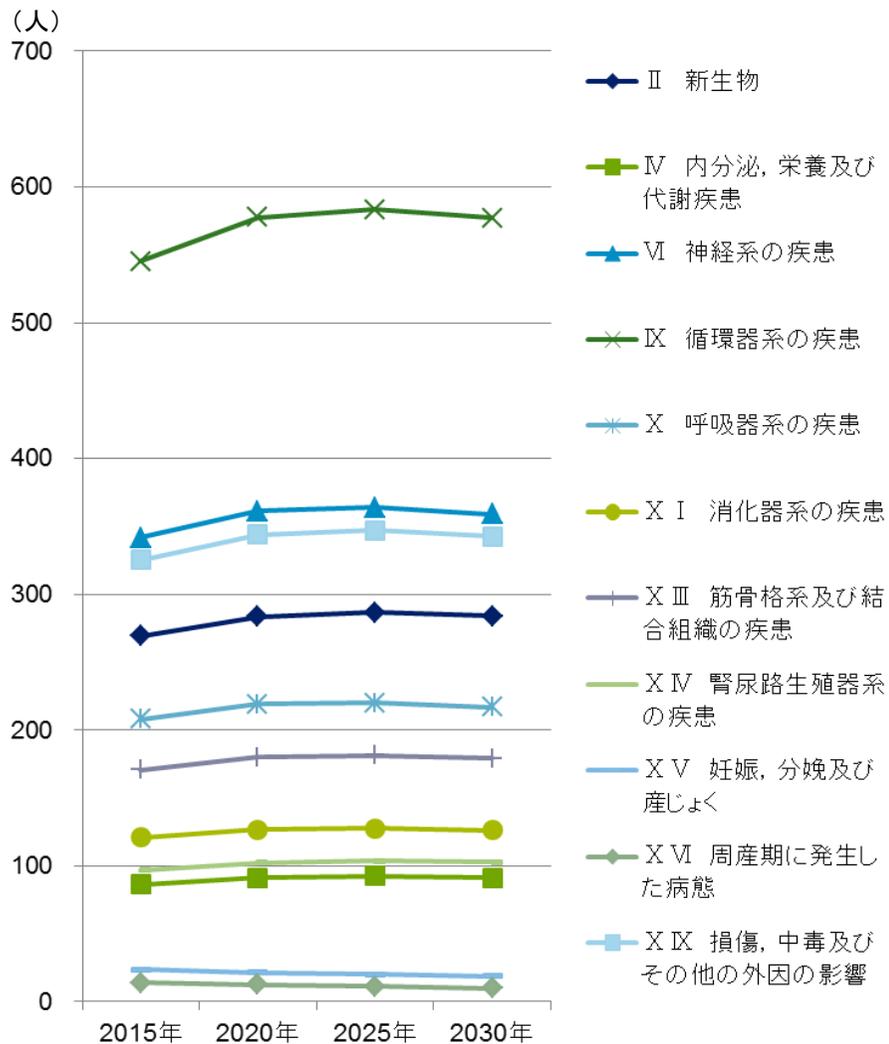


	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全国	126,597,295	124,099,925	120,658,815	116,617,657	112,123,574	107,275,850
京都府	2,614,519	2,566,846	2,499,460	2,418,108	2,325,138	2,223,586
南丹医療圏	138,485	133,267	127,336	120,938	114,101	106,900
亀岡市	90,486	88,214	85,200	81,604	77,508	73,056

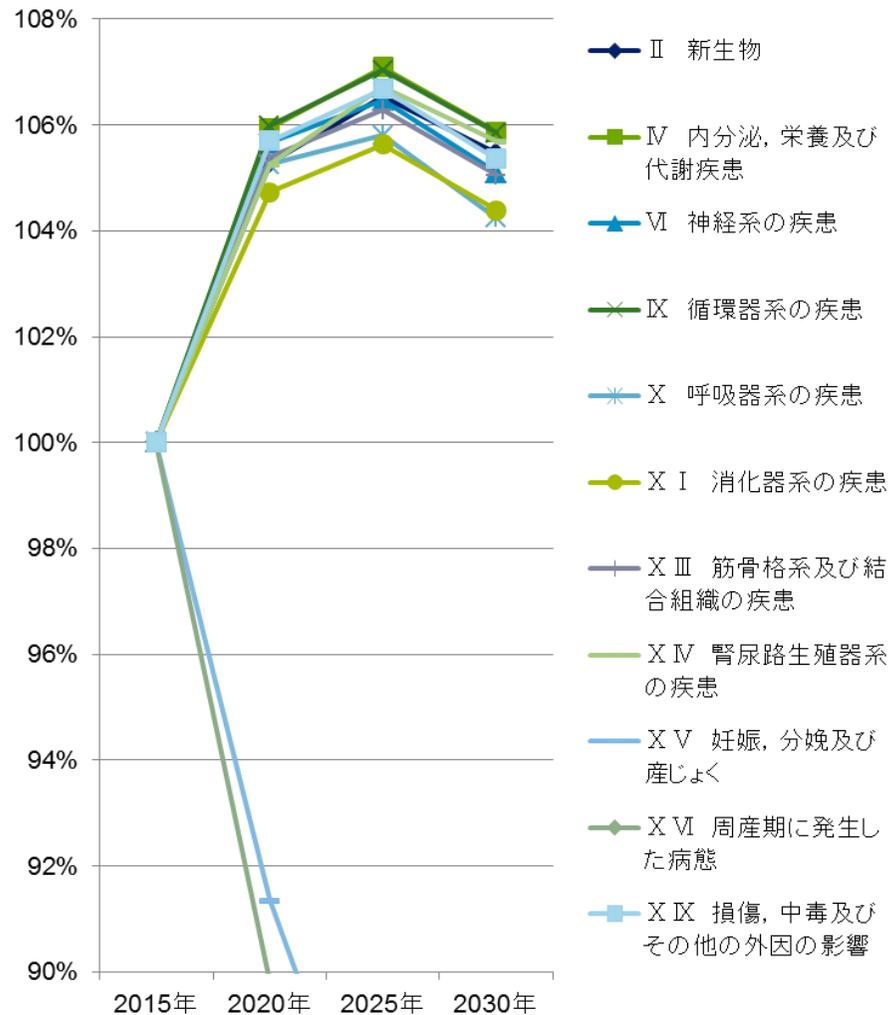
	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
全国	33,951,869	36,123,804	36,573,488	36,849,258	37,407,182	38,678,103
京都府	730,729	768,685	769,725	771,665	781,035	809,144
南丹医療圏	40,291	42,901	43,095	42,486	41,401	40,810
亀岡市	23,561	26,071	26,892	26,936	26,641	26,755

# 南丹医療圏の入院患者は高齢化に伴い循環器、損傷系(整形外科分野)、神経系など、リハビリテーションを伴う疾患への需要が増加することが推測されている

## 南丹医療圏1日あたり入院患者数推測

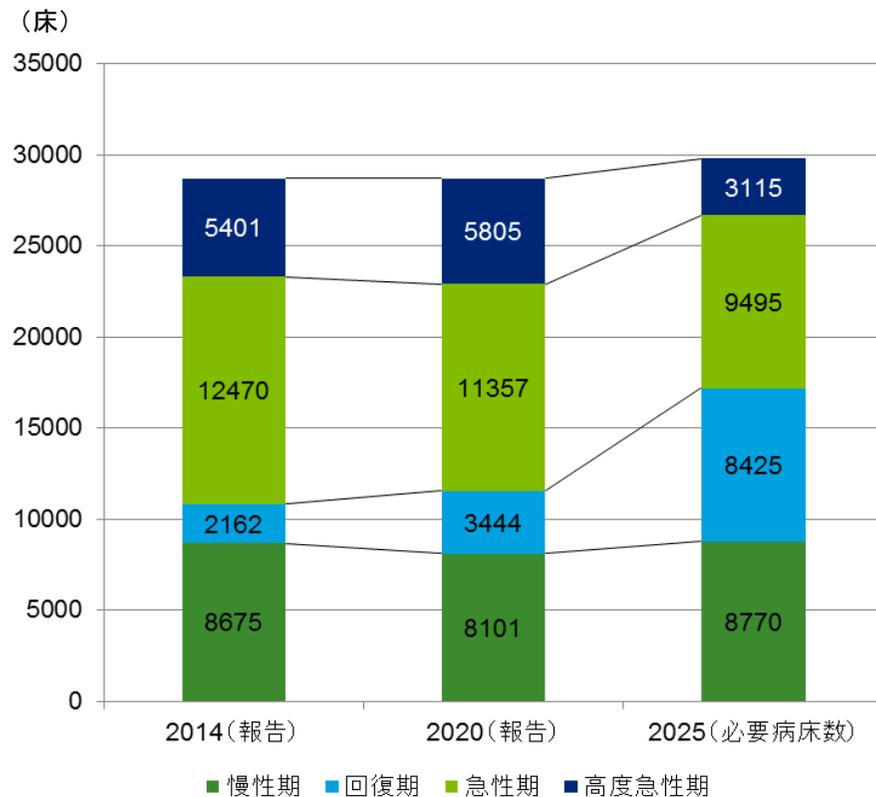


## 南丹医療圏1日あたり入院患者増減率推測

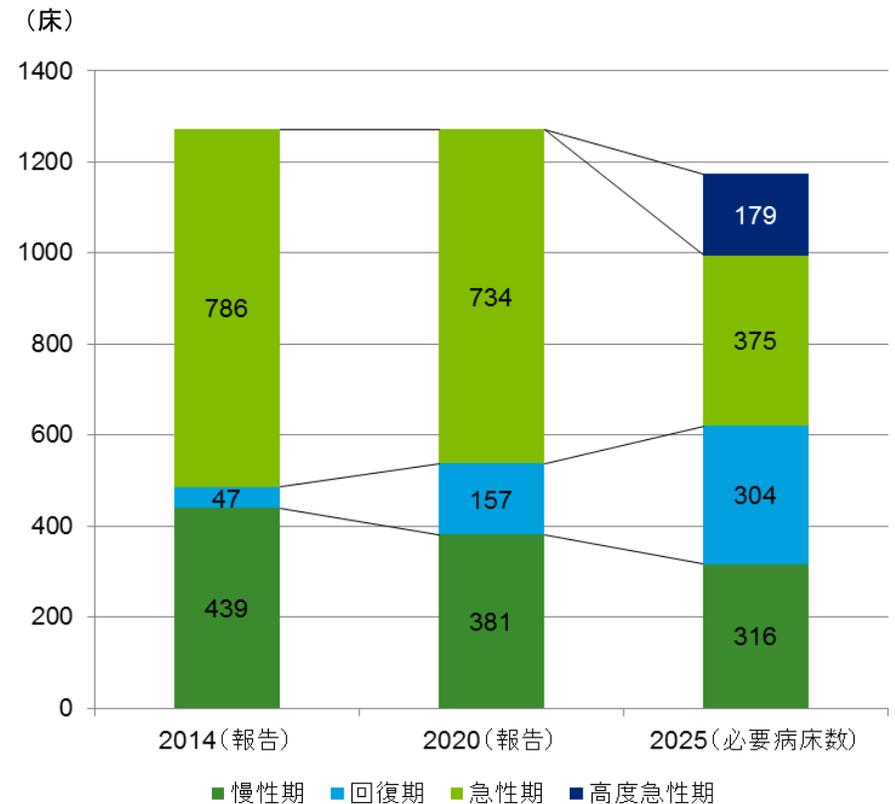


# 南丹医療圏の病床構成は京都府全体と異なり、高度急性期、回復期機能が不足しており、過多である急性期病床の回復期への移行が求められている

京都府 2014年病床報告と2025年必要病床数



南丹医療圏 2014年病床報告と2025年必要病床数



出所: 京都府医療審議会地域医療構想策定部会(平成27年8月20日開催)資料  
H26病床報告、ケアレビュー「二次医療圏×機能別病床配分理論値試算結果一覧(vol.1.0)」

# 南丹医療圏の医療・介護の施設数は平均水準であり、介護職員は多くなっているが、医療従事者は少なく、人員投資を必要とする高度急性期の供給体制を構築するには厳しい環境であると考えられる

## 医療施設数比較

	施設数	人口10万人あたり施設数			
		京都府	全国平均	京都府	京都・乙訓医療圏 南丹医療圏
一般診療所	2,236	68.4	84.8	98.4	61.4
内科系	1,135	40.1	43.1	49.0	32.8
外科系	479	17.0	18.2	20.6	13.3
小児科系	428	15.5	16.2	17.1	9.8
産婦人科系	96	3.6	3.6	4.1	2.8
皮膚科系	255	8.4	9.7	12.1	3.5
眼科系	152	5.7	5.8	6.8	4.2
耳鼻咽喉科系	131	4.2	5.0	6.0	3.5
精神科系	109	4.1	4.1	5.4	2.8
病院	171	6.6	6.5	6.9	7.0
		75歳1000人以上施設数			
介護施設数	3558	13.6	12.2	12.4	12.8
訪問型介護施設数	919	3.2	3.2	3.4	3.2
通所型介護施設数	789	3.5	2.7	2.7	3.0
入所型介護施設数	592	2.2	2.0	1.9	2.4
特定施設数	49	0.3	0.2	0.2	0.0
居宅介護支援事業所数	727	2.5	2.5	2.6	2.5
福祉用具事業所数	205	0.9	0.7	0.8	0.3

## 医療従事者数比較

### 医師

	数	10万人あたり
全国	-	156.71
京都府	5215	197.82
京都乙訓医療圏	-	247.92
南丹医療圏	-	130.11

### 看護師(看護師・准看護師)

	数	10万人あたり
全国	-	1031.5
京都府	28751	1090.7
京都乙訓医療圏	-	1191.7
南丹医療圏	-	882.5

### 薬剤師

	数	10万人あたり
全国	-	215.9
京都府	5873	222.8
京都乙訓医療圏	-	268.6
南丹医療圏	-	110.9

### リハビリスタッフ

	理学療法士		作業療法士		言語聴覚士	
	数	10万人あたり	数	10万人あたり	数	10万人あたり
全国	-	37.1	-	24.0	-	7.5
京都府	1060	40.2	599	22.7	165	6.3
京都乙訓医療圏	-	44.6	-	25.1	-	6.9
南丹医療圏	-	25.0	-	17.4	-	5.0

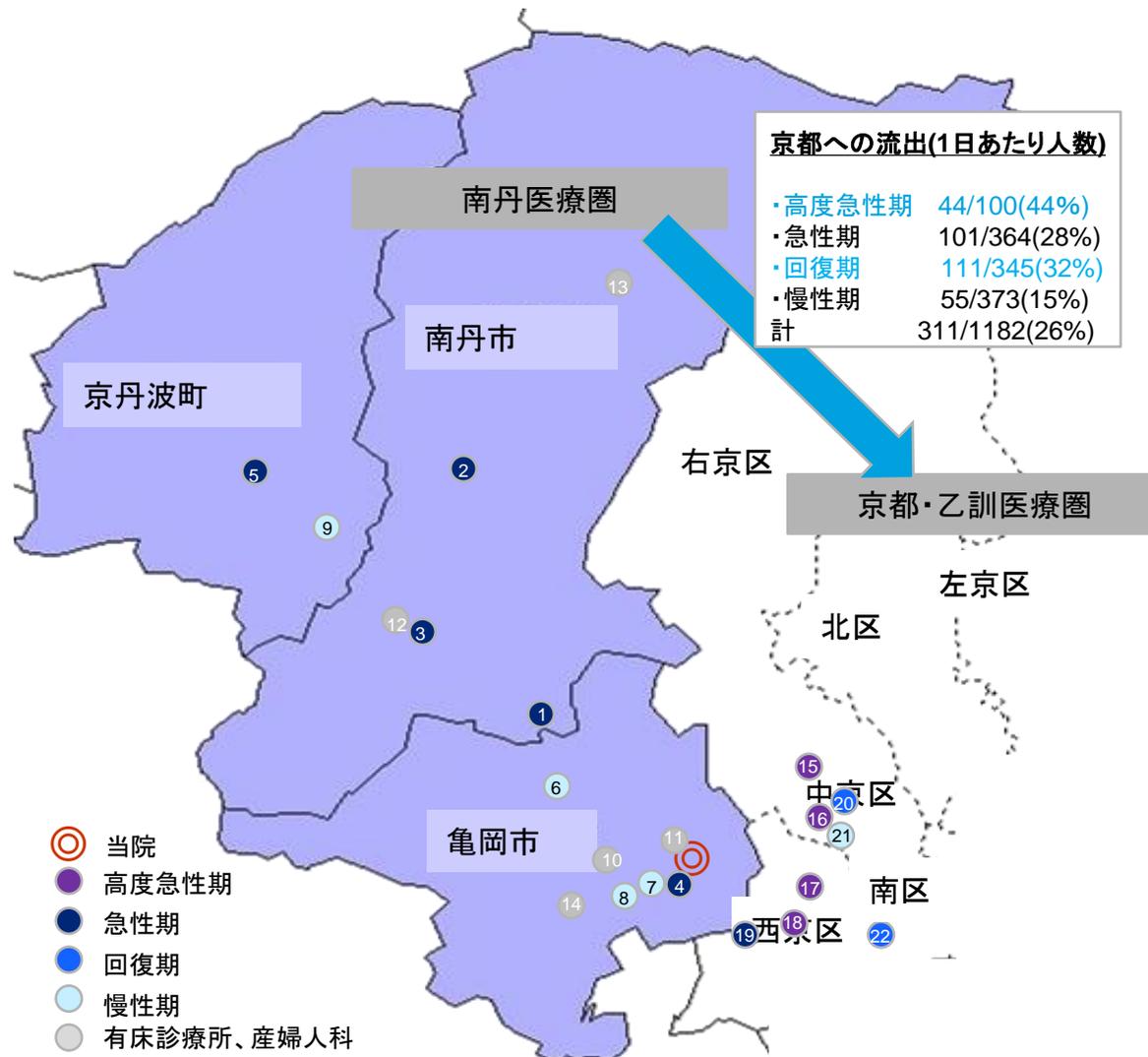
### 介護職員(常勤換算人数)

	数	75歳以上 1000人あたり
全国	-	101.0
京都府	29409	100.7
京都乙訓医療圏	-	103.4
南丹医療圏	-	117.2

出所: 京都府保健医療計画、日本医師会「地域医療情報システム」(2015年データ)

# 南丹医療圏は高度急性期、回復期での施設不足から両機能において京都市への流出が高くなっており、地域包括ケアシステム構築のためには在宅機能に近い回復期機能の強化が求められる

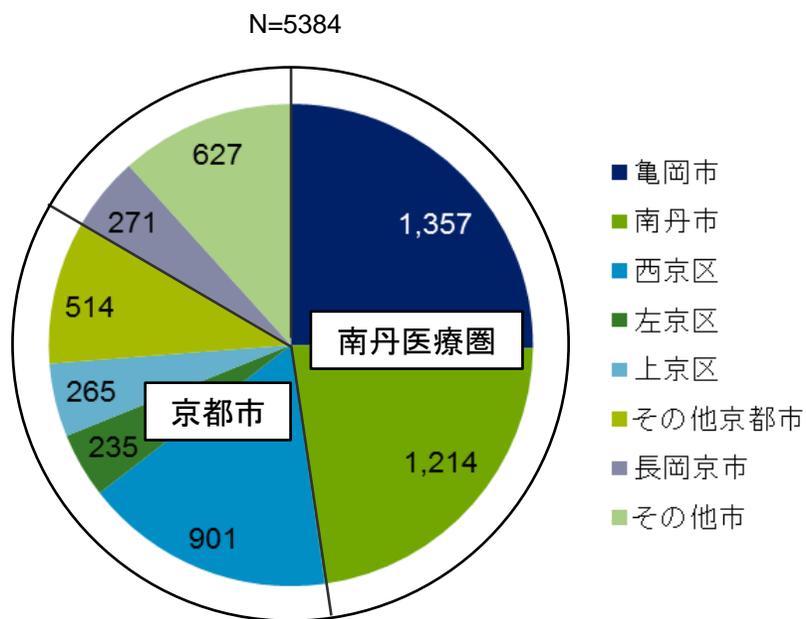
## 南丹医療圏施設配置と患者流出



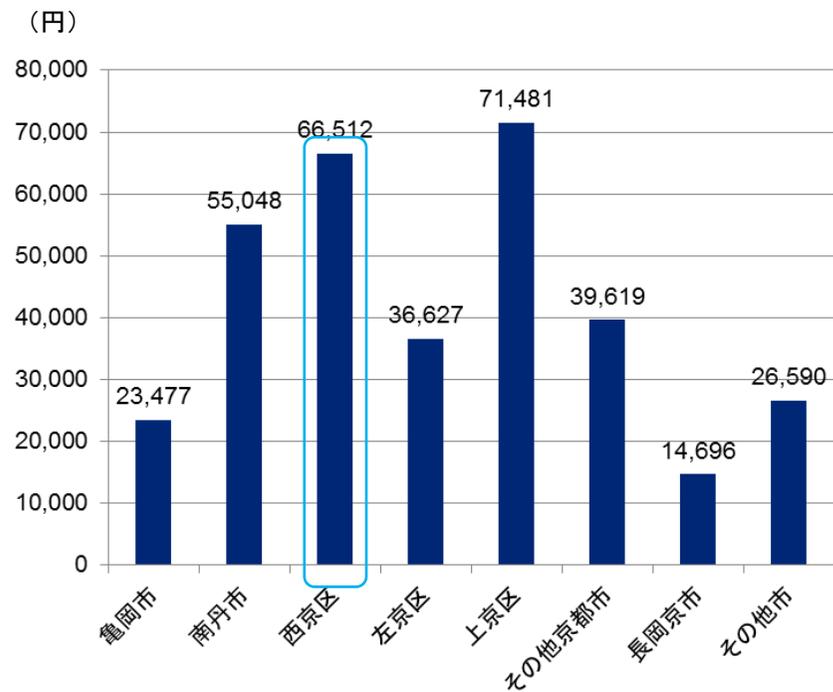
NO	施設名称	2014年7月1日				
		全体	高急	急性	回復	慢性
1	公立南丹病院	464	0	464	0	0
2	明治国際医療大学附属病院	114	0	114	0	0
-	亀岡市立病院	100	0	100	0	0
3	医療法人 丹医会 園部丹医会病院	60	0	60	0	0
4	医療法人清仁会亀岡シミズ病院	199	0	58	0	141
5	国保京丹波町病院	47	0	47	0	0
6	花ノ木医療福祉センター	150	0	0	0	150
7	医療法人亀岡病院	108	0	0	0	108
8	医療法人睦会ムツミ病院	90	0	0	0	90
9	医療法人 丹笠会 丹波笠次病院	85	0	0	0	85
10	医療法人田村産婦人科医院	16	0	16	0	0
11	医療法人芽生会山口マタニティクリニック	13	0	13	0	0
12	医療法人川西診療所	15	0	15	0	0
13	医療法人財団美山健康会美山診療所	4	0	4	0	0
14	小牧産婦人科医院	6	0	0	0	6
15	京都市民医連中央病院	411	19	274	118	0
16	京都市立病院	536	226	310	0	0
17	三菱京都病院	188	142	46	0	0
18	京都桂病院	525	474	51	0	0
19	洛西シミズ病院	148	0	111	37	0
20	がくさい病院	90	0	40	50	0
21	京都武田病院	240	0	60	60	120
22	十条武田リハビリテーション病院	182	0	39	100	43

# 亀岡市の入院患者の半数以上は南丹医療圏外で受療しており、西京区への流出が最も多く、単価よりその多くは高度急性期患者と考えられる

亀岡市国保入院患者の流出先(レセプト枚数ベース)

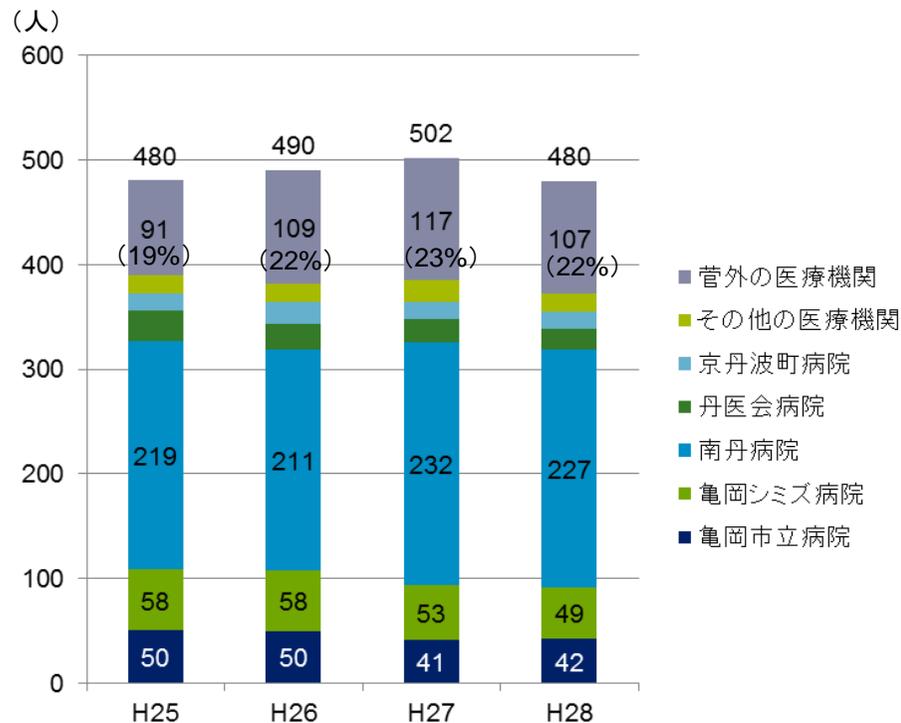


亀岡市国保入院患者の流出先での入院単価

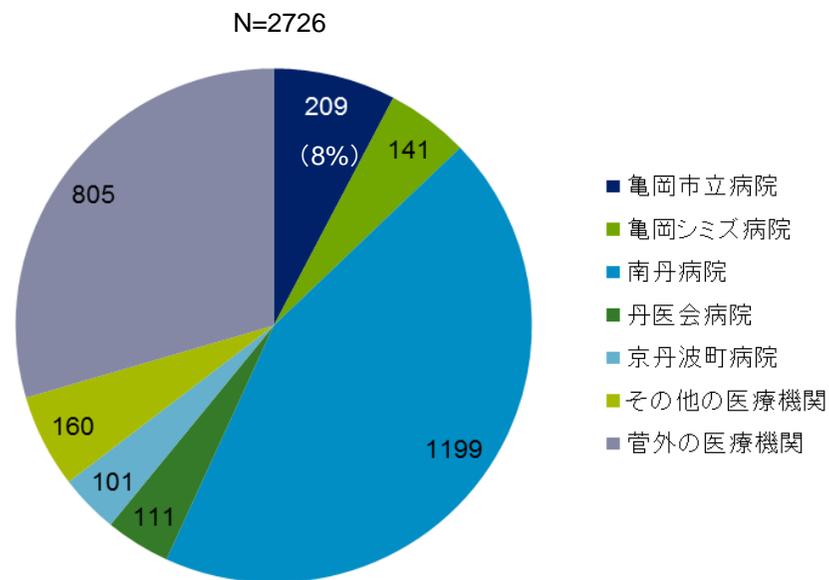


# 南丹医療圏の救急搬送患者は約20%が圏外での受療となっている。当院はH27年で中等症以上の患者を約8%受け入れており、救急医療に対して一定の役割を果たしている

1ヶ月あたり 南丹医療圏救急搬送受け入れ先件数



H27年 医療機関別 中等症以上の患者搬送件数



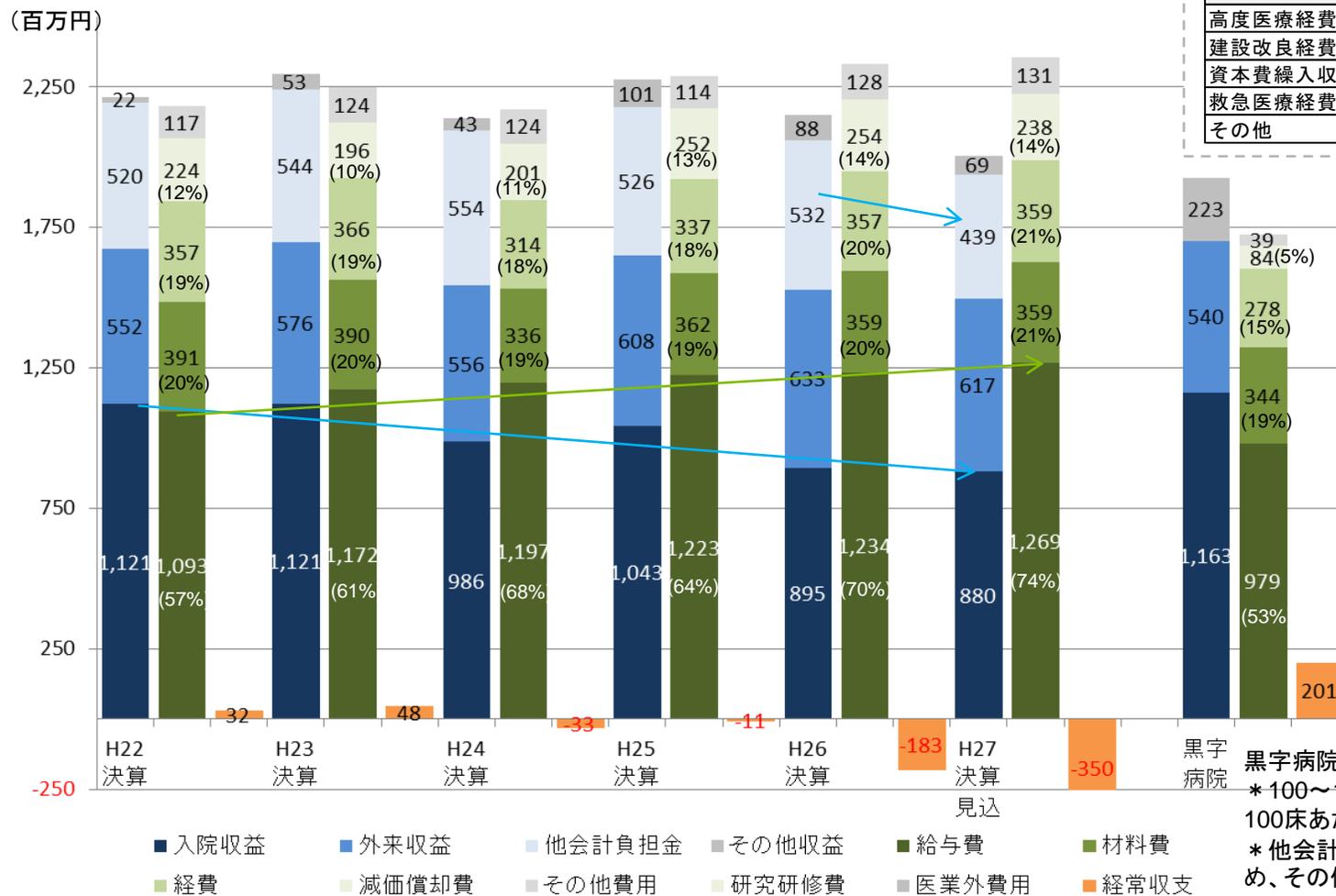
\* 軽症、中等症、重症患者数を抽出  
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

\* 中等症、重症患者数を抽出  
 中等症：傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

## 内部環境

# 当院は経年で入院収益の減少と人件費の増加により赤字が続いており、H27年度は他会計負担金の減少もあり経常赤字は3億5000万円となった

## 経常収支の推移



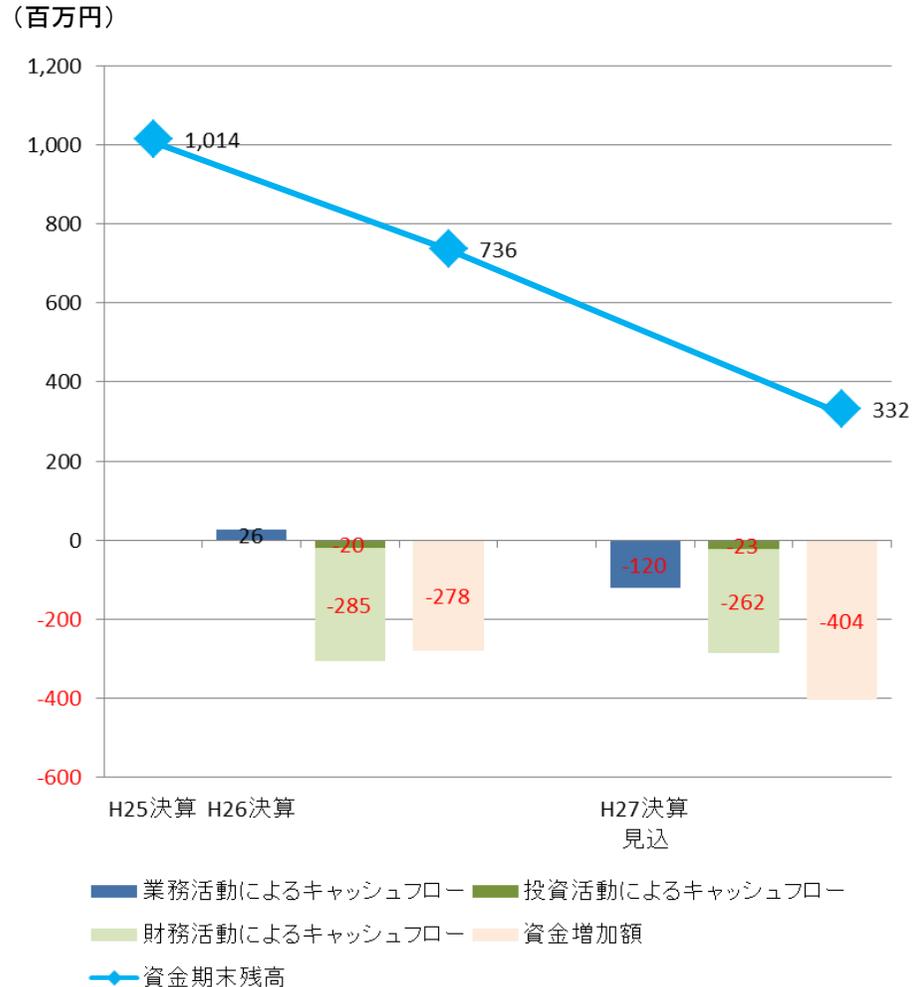
\* 他会計負担金の主な項目の支給額 (千円)

	26年度	27年度
高度医療経費	141,651	35,000
建設改良経費	22,991	21,897
資本費繰入収益	124,239	125,504
救急医療経費	171,228	167,237
その他	71,976	89,019

黒字病院  
 \* 100~199床病院の平均値を100床あたりへ換算している  
 \* 他会計負担金額詳細不明のため、その他収益でまとめている

# 経年でキャッシュフローは赤字で、資金不足に陥る状況となっている。資金を保つためにはH27ベースで純利益を300万円以上にすることが必要であり、収支で黒字化が求められる

## H27 キャッシュフローの推移



出所: 当院決算書

## キャッシュフロー内訳

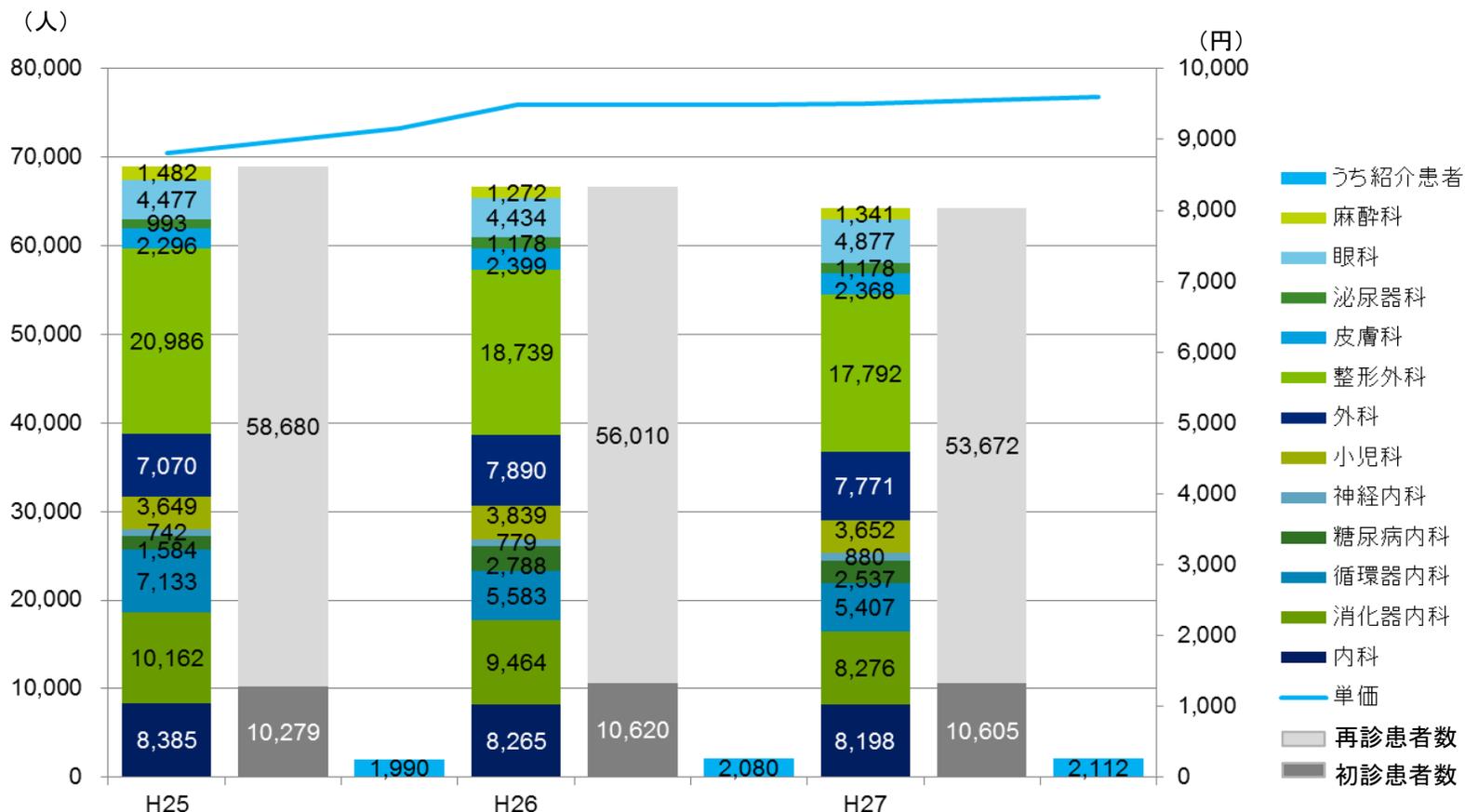
(百万円)

	H26決算	H27決算見込	H27ベースで計算
業務活動によるキャッシュフロー	26	-120	284
当年度純利益	-307	-401	3
過年度減価償却振替額	0		
減価償却費	254	238	238
貸倒引当金の増減額	8		-
退職引当金の増減額	37	28	28
修繕引当金の増減額	-11	-2	-2
賞与引当金の増減額	65	7	7
長期前受金戻入額	-11	-11	-11
受取利息及び配当金	-1	-1	-1
支払利息	57	55	55
未収金の増減額	-15	41	41
たな卸資産の増減額	1	1	1
前払費用の減少額	0	-1	-1
繰延勘定の減少額	3	3	3
未払金増減額小計	2	-24	-24
小計	82	-66	338
利息及び配当金の受取額	1	1	1
利息の支払額	-57	-55	-55
投資活動によるキャッシュフロー	-20	-23	-23
財務活動によるキャッシュフロー	-285	-262	-262
資金増加額	-278	-404	0

H27は特別損失が約5000万円あり、純損失は△4億円となっている

# 外来患者数は市民のかかりつけ医を持つことによる減少が考えられるが、紹介患者は微増にとどまっている

## 外来患者、単価の推移

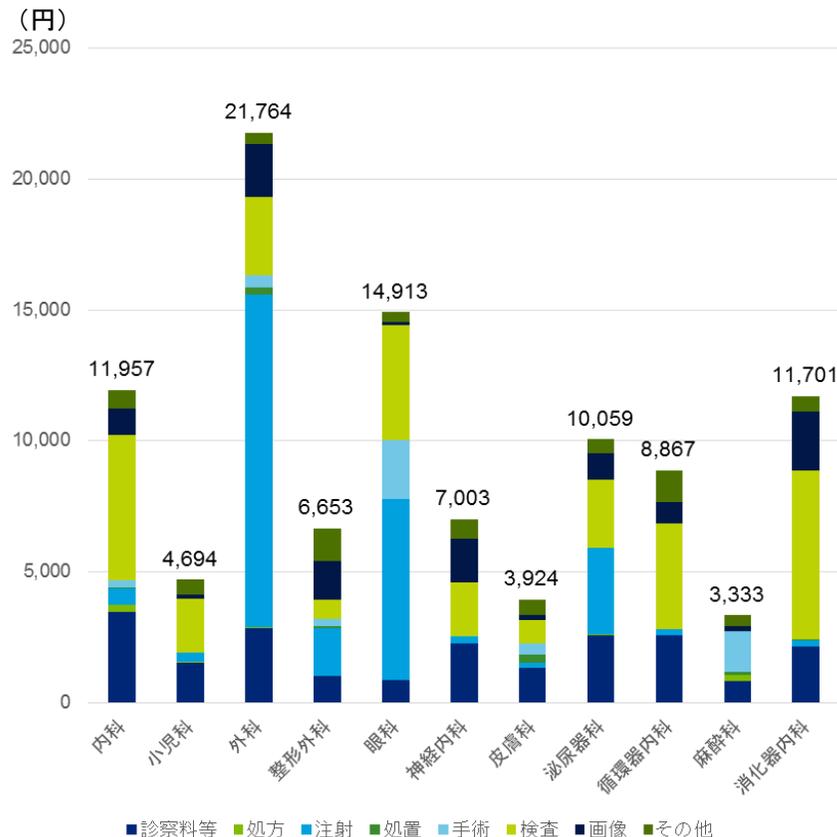
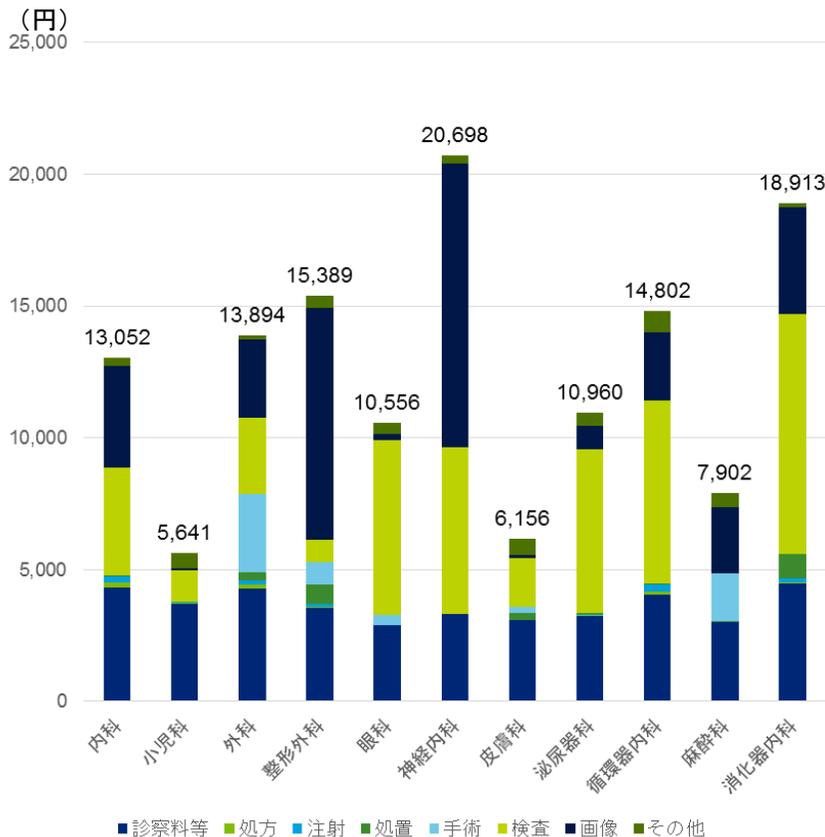


医師増減 (対前年比)	✓ 糖尿病内科 +1	✓ 消化器内科 -2 ✓ 循環器内科 -1	✓ 整形外科 +1 ✓ 内科 +1
診療の取組	✓ 糖尿病内科開設	✓ 呼吸器外科外来開設	

# 外来患者の診療は画像診断や化学療法等注射など当院が担うべき患者を受けいれている一方で、再診においては診療行為の少ない患者も受け入れている状況であり、地域医療機関との連携強化による効率化が求められている

## 初診外来患者 単価構成

## 再診外来患者 単価構成

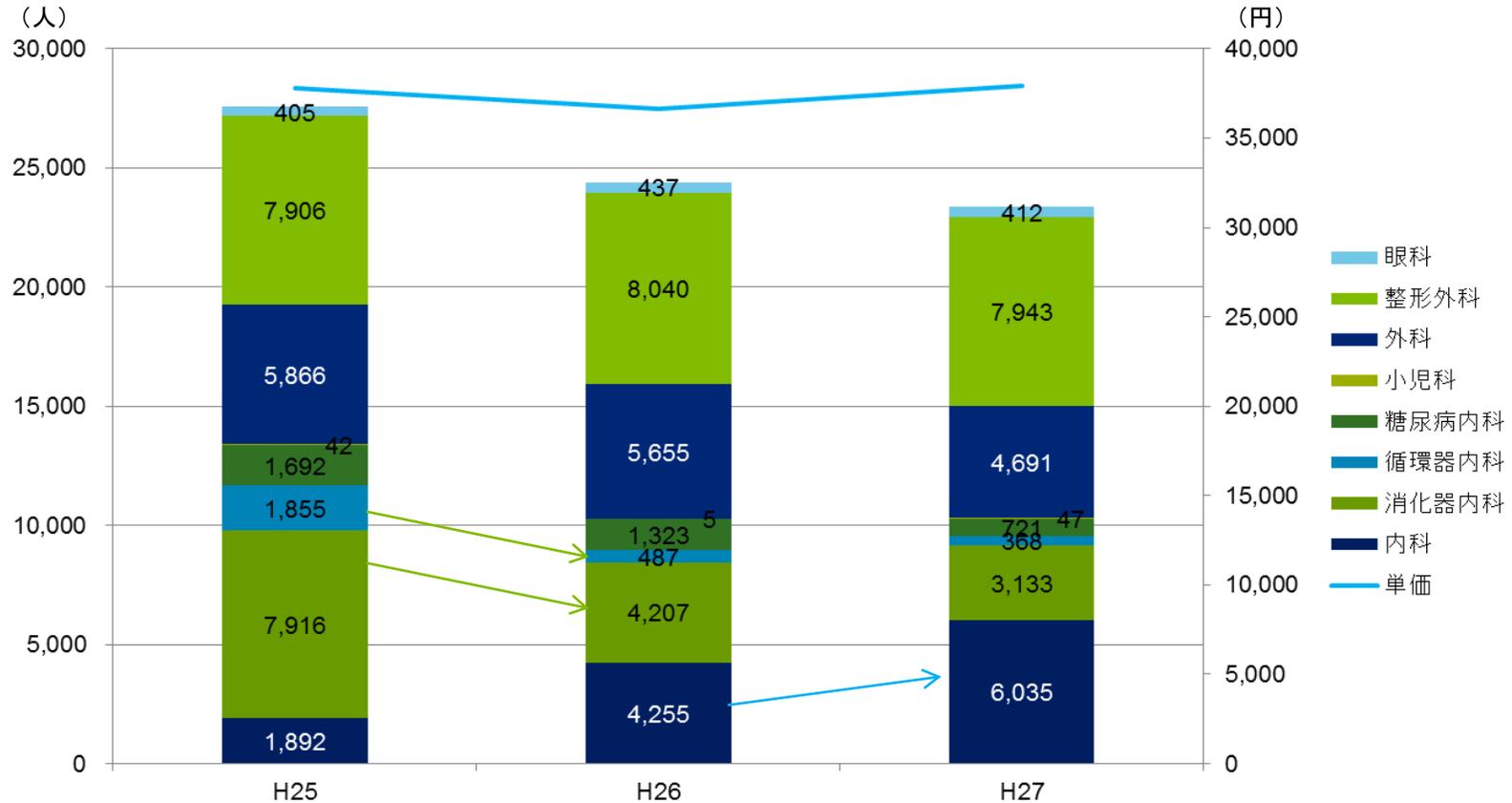


参考) 注射の代表的な診療行為

	診療行為名	点数	薬剤料
眼科	硝子体内注射	16964	16384
外科・泌尿器	皮内、皮下及び筋肉内注射(1回につき)	7316	7298

# 入院患者数は外部環境や医師の増減に影響され経年で減少傾向であり、稼働率を上げる取組が求められている

## 入院患者、単価の推移

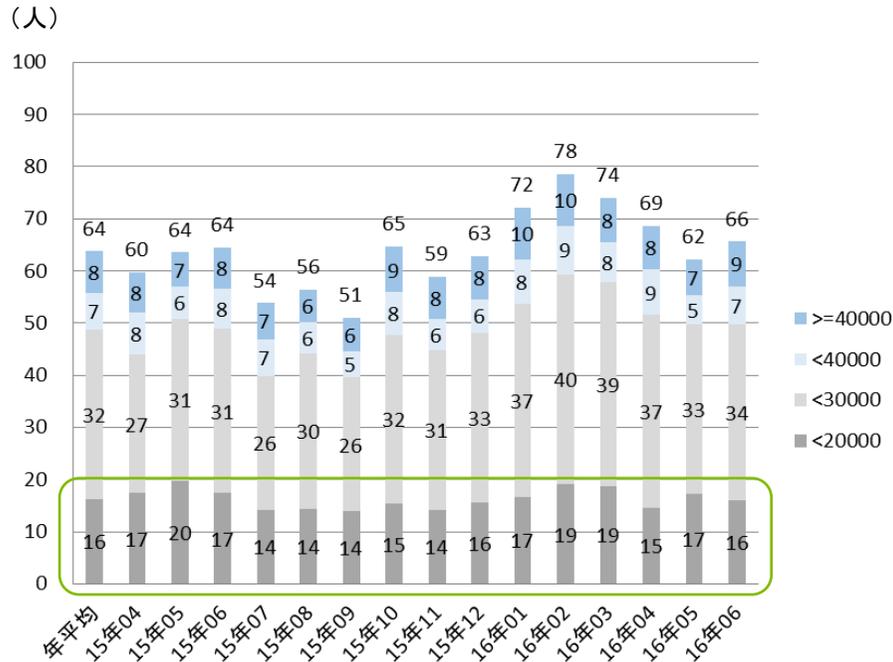


稼働率	75.5%	66.9%	64.3%
医師増減	✓ 糖尿病内科 +1	✓ 消化器内科 -2 ✓ 循環器内科 -1	✓ 整形外科 +1 ✓ 内科 +1
診療の取組	✓ 糖尿病内科開設 ✓ リハビリ科標榜	✓ 呼吸器外科外来開設	✓ 地域包括ケア病棟 算定開始(3月)

出所: 当院医事データ

# 入院患者の構成は在院日数30日以上の長期入院患者が約1/4占めており、入院単価の低い患者数へと影響していることが考えられ、より効率的な病床の利用が求められている

H27～H28 6月 入院患者構成 単価月次推移



H27～H28 6月 入院患者構成 在院日数月次推移

